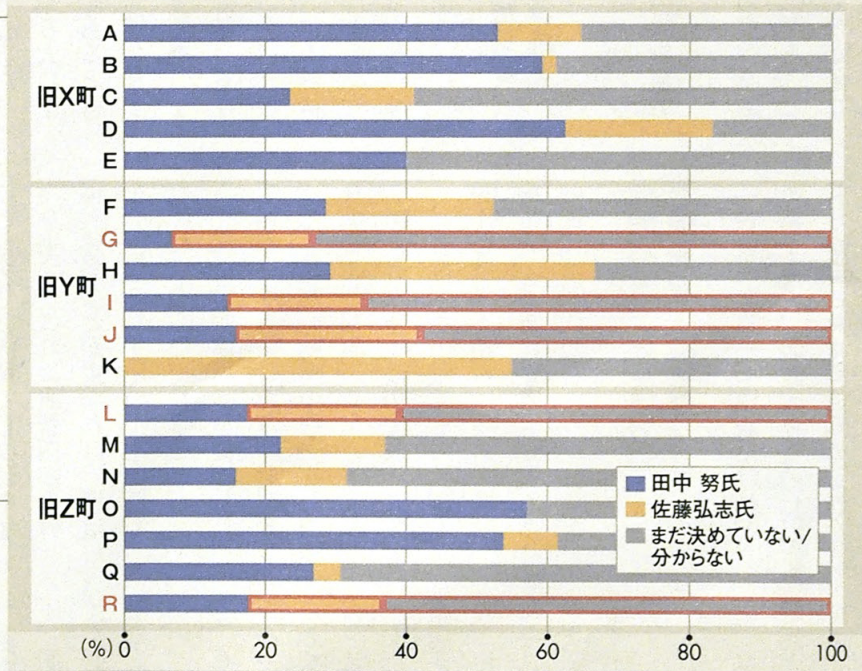


達人 松田 馨

リサーチを基に票を読み候補者を勝利に導く

弱い地域を捨て強い地域に戦力を集中

5-4 候補者別・学区別支持率



選 挙プランナー」は候補者を当選させるためにさまざまな情報を分析し戦略を立てるのが仕事だ。日本ではまだ十数人しかいないともいわれる。松田馨氏が選挙プランナーとしての第一歩を踏み出したのは、2006年7月の滋賀県知事選挙だった。PRの仕事に携わっていた松田氏は、イメージ戦略を担当。経験を生かしてマスコミに話題を効果的に提供し「空中戦」で支持

を広げた。その結果、自民・公明・民主が推薦する現職候補に、新人で無所属だった嘉田由紀子氏が勝利。これが話題となり、松田氏の名前が知れ渡ることとなった。「選挙プランナーをやってみて分かったのは、選挙が経験や勘に頼り過ぎているということ」。例えば、選挙戦略の立案に欠かせない票読みにしても、後援会の会員が何人いるからその半分は投票してくれるだろう、という発想だった。

で細かく支持率を分析(図5-4参照)。すると、旧町別に支持率の傾向にかなり差があることが分かった。クライアントの佐藤弘志氏(仮名)の地盤である旧Y町では対立候補を13ポイントリードする一方、現職の田中努氏(仮名)の地盤である旧X町では42ポイントのリードを許していた。

普通を考えれば、リードされている地区でもっと支持を増やそうとするとところだ。しかし、短期決

松田氏は経験と勘に頼っていた世界にデータを持ち込む。まずその地域の過去の選挙結果をリサーチし、地域ごとの有権者数、投票所別の投票率、候補者や政党別の得票数、当選ラインなどを把握する。その上で独自に世論調査を行う。選挙期間中に3〜4回実施して定点観測することと打つべき手が見えてくる。

ある自治体の市長選挙では、合併前の旧町・学区別

がりそうだ。

DW



まつだ・かおる/ダイアログ代表取締役
・選挙プランナー。1980年生まれ。
2006年以降、地方選挙から国政選挙まで100を超える選挙に携わり勝率は7割超。新聞・雑誌で選挙の議席予測を担当するなど、当落予想にも定評がある。